

兵庫県におけるゴルフ場の分布と立地の研究

大塚 翔

キーワード: ゴルフ, ゴルフ場, ゴルフ場ブーム, 自動車専用道路, 兵庫県

1. 研究の目的と方法

本研究は、兵庫県のゴルフ場の分布と立地について考察し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

兵庫県のゴルフ場の現状を地区別に調べていくために、兵庫県の神戸地区、阪神地区、東播磨地区、西播磨地区、但馬地区、丹波地区、淡路地区、の7つの地区にと区分する。そしてそれぞれの地区の地誌研究を進めることとした。そのなかで、特にゴルフ場の多い地域については、その原因を様々な角度から言及していく。

本研究では基本参考資料としているゴルフダイジェスト社編(2004)と、日本ゴルフ場協会資料を用い、その他の文献インターネットを参考にして数値を入力し図表化する。また、必要な場合はGIS(地理情報システム)を用いて地図化して考察を行なう。

2. ゴルフ場の動向

全国のゴルフ場数は、2004年において2294箇所である。都道府県別にゴルフ場数をみると、わが国で最もゴルフ場が多い都道府県は北海道で171箇所ある(図1)。その後には、兵庫・千葉・栃木・茨城といった都道府県が続く。ゴルフ場が少ない県は、高知・島根・福井の11ヶ所で、富山・秋田の16ヶ所が続いている。

図2は1957年から2004年にかけての日本におけるゴルフ場数と前の年と比べたゴルフ場の増加数の推移を表している。1957年の時点は、116箇所しかなかったゴルフ場が、2004年には、その

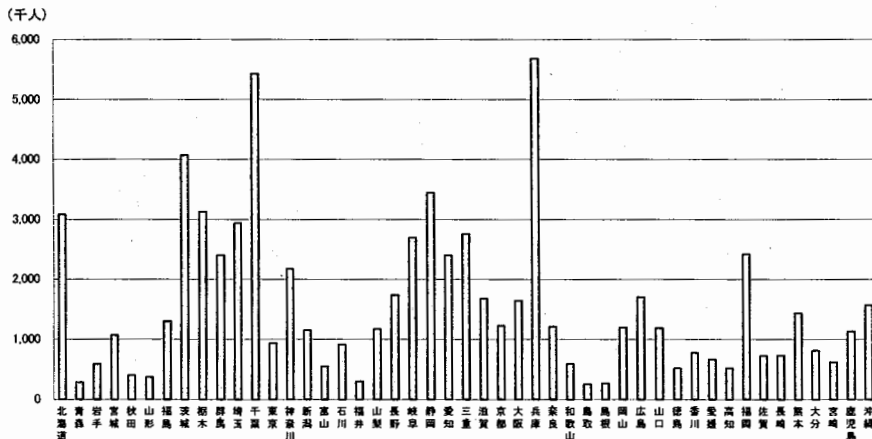


図1 都道府県別ゴルフ場延利用者数

出所 日本ゴルフ場事業協会ホームページ

(<http://www.golf-ngk.or.jp/riyouzei16.pdf>)より本人作成

約 25 倍の 2453 箇所までに増加している。そして、1957 年から 2004 年まで、増加をたどるゴルフ場数の中で、急激に増加が目立つ時期が 3 期ある。すなわち、1958 年～1961 年、1973 年～1976 年、1989 年～1993 年の 3 つのピークである。田中は、この第 2 次世界大戦後の日本の 3 期のゴルフ場建設ラッシュをゴルフ場ブームと捉え、1959 年～1961 年を「第 1 次ゴルフ場ブーム」1971 年～1974 年を「第 2 次ゴルフ場ブーム」そして 1980 年以降「第 3 次ゴルフ場ブーム」と定義している。(田中、年代)なお、田中の定義したゴルフ場ブームと図 2 とを比較すると、ゴルフ場の増加数のピークの年に若干のズレがある。

本研究では、田中の捉えた「ゴルフ場ブーム」を、日本ゴルフ場事業協会資料に基づき考察を進める。よって本研究における「第 1 次ゴルフ場ブーム」は「1958 年～1961 年」とし、「第 2 次ゴルフ場ブーム」は「1973 年～1976 年」とする。また、田中は 1986 年以降を「第 3 次ゴルフ場ブーム」としているが、いつまでとの定義はしていない。それは、田中の研究が「第 3 次ゴルフ場ブーム」の真っ只中だからである。図 2 より判断すると、1993 年を機にゴルフ場数の波が緩やかになり、増減数のグラフも 2004 年までほとんど下がっている。よって「第 3 次ゴルフ場ブーム」は「1989 年～1993 年」までである。3 つのゴルフ場のうち、ゴルフ場の増加が著しいのは「第 2 次ゴルフ場ブーム」の時であり、とくに 1974 年に 154、1975 年に 166 のゴルフ場が建設されている。

3. ゴルフ場ブームと経済政策の関係

前項で指摘した 3 期のゴルフ場ブームと国土開発政策やその他の政策の関係を考察する。まず、第 1 次ゴルフ場ブームについてみる。1958 年～1961 年まで続いた第 1 次ゴルフ場ブームの背景には、「岩戸景気」と「全国総合開発計画(一全総)」がある。岩戸景気は 1958 年 6 月～1962 年 10 月まで続き、全国総合開発計画(一全総)は 1961 年に制定されている。どちらの要因も、第 1 次ゴルフ場ブームと時期は重なっている。しかし、全国総合開発計画(一全総)は第 1 次ゴルフ場ブームと 1961 年の 1 年間しか時期が重なっていないが、岩戸景気は第 1 次ゴルフ場ブームの時期とほぼ同時期に起こっている。

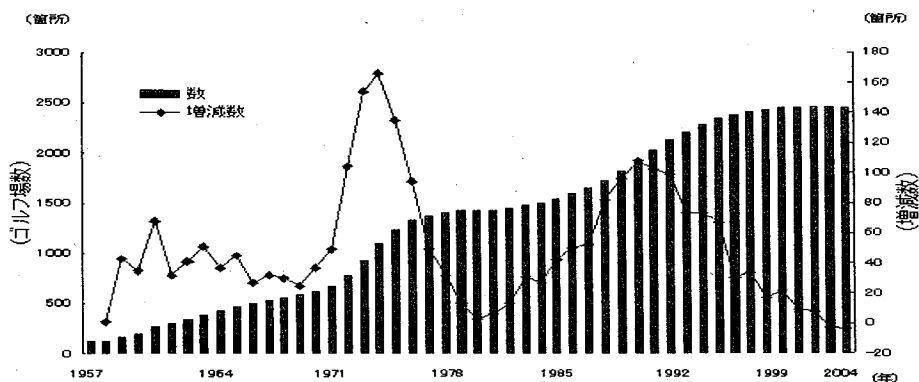


図 2 日本におけるゴルフ場数とその増減数の推移
出所: 日本ゴルフ場事業協会資料より本人作成

よって第1次ゴルフ場ブームは岩戸景気の影響が強く、その後、全国総合開発計画(一全総)が制定されたということが分かる。

次に、第2次ゴルフ場ブームについてみる。1973年から1976年の3年間続いた第2次ゴルフ場ブームの背景には「いざなぎ景気」と、「二全総」がある。いざなぎ景気は1965年10月～1971年12月まで続き、二全総は1974年に制定される。二全総はゴルフ場ブームと時期的に重なりがあり、関係が深いと考えられる。また、いざなぎ景気による景気の上昇があったからこそ、ゴルフ場ブームが続いたと考えることもできる。そう考えると、第2次ゴルフ場ブームも二全総も、いざなぎ景気の影響で起こったと考えることができる。

そして、第3次ゴルフ場ブームについてみる。第3次ゴルフ場ブームは、四全総、五全総、総合保養地整備法の3つの国土開発計画とバブル景気の影響が考えられる。四全総は1987年に、五全総は1988年に、リゾート法は1987年に制定される。またバブル景気は1986年12月～1991年2月まで続いた。時期的には、どの要因も重なっている。しかし、第3次ゴルフ場ブームは、リゾート法によるリゾート開発を引き金にした地域振興を考える自治体側の事情も少なからず関係していたと考えられ、これらの要因の中で総合保養地整備法の影響が最も強いのではないだろうか。

以上より、ゴルフ場開発ブームは、突発的に起こったものではなく、我が国の「国土開発政策」の歴史的経過とその延長上に、必然的に生まれたものであるといえる。

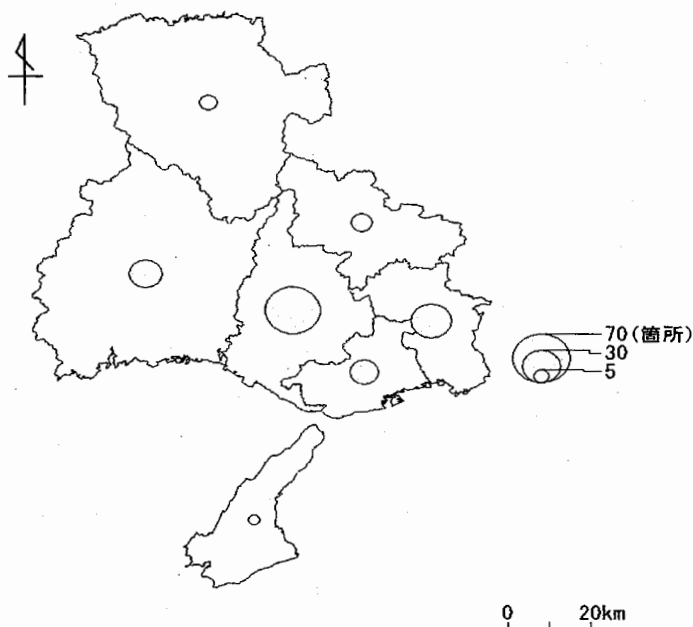


図3 兵庫県のゴルフ場分布図
出所 ゴルフダイジェスト社編より本人作成

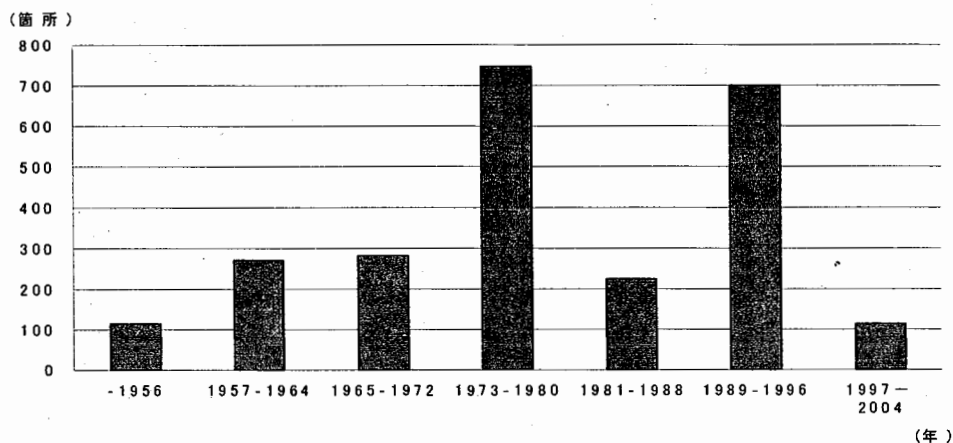


図4 日本全体の年代別ゴルフ場の開場数
出所 日本ゴルフ場事業協会資料より筆者作成

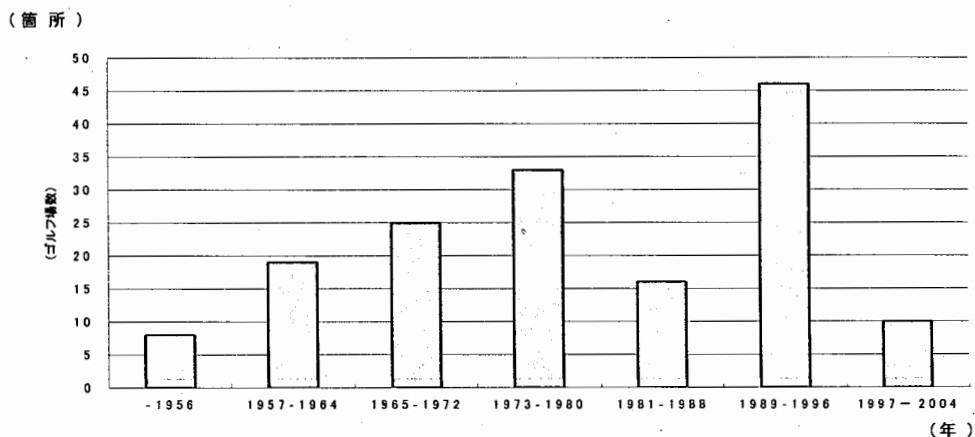


図5 兵庫県年代別ゴルフ場開場数
出所 ゴルフダイジェスト社編(2004)より筆者作成

4. 兵庫県におけるゴルフ場開発

日本全体では、いざなぎ景気の影響で起こった、第2次ゴルフ場ブームの時期に最も多くゴルフ場が建設されている。しかし、兵庫県のゴルフ場は、第3次ゴルフ場ブームの時期に最もゴルフ場の建設が集中しているという特徴がある。これには一つの要因が考えられる。第3次ゴルフ場ブームの時期に当たる、1989年から1996年の間に46箇所のゴルフ場が建設されている。その時期に建設された46箇所のゴルフ場のうち、27箇所が東播磨地区で建設されている。兵庫県のゴルフ場の立地は県内に均等に分布するのではなく、地域的偏在がみられる(図3)。東播磨地区にゴルフ場が多く建設されているのは、自動車専用道路とのつながりが強いためと考えられる。1970年に中国自動車道が、1982年には山陽自動車道が開通した。兵庫県は、大都市である大阪に隣接しており、そこからのゴルフ場利用者が多い。自動車専用道路開通までは、中心都市を大阪とした

場合、大阪からのゴルフ場利用者は、東播磨地区まで車で移動する場合多くの時間を要した。しかし、開通後は一気に時間が短縮されることとなった。それに加え、自動車専用道路のインターチェンジ近くにゴルフ場を建設することで、交通面での便宜をさらに深めることができた。兵庫県ではインターチェンジからの距離が15km以内のゴルフ場が130箇所ある。これは兵庫県のゴルフ場の全体の数の82.8%である。15kmとしたのは、一般道路での平均的な速度を、約30kmとした場合、インターチェンジからの距離が15kmだと、30分でゴルフ場に到着するという計算になるからである。

以上より、日本のゴルフ場の建設の動向とは異なり、兵庫県におけるゴルフ場の立地は自動車専用道路の進展と深く関係し、モータリゼーションとともに展開していったといえる。

参考文献

- 尾崎帛四郎(1979):日本におけるゴルフ場に関する一考察. 地理学評論 49-6, pp.400-408.
黒坂百合子(1992):大都市外縁部におけるゴルフ場開発—静岡県沼津市を事例として, お茶の水地理 33, pp.68-75.
ゴルフダイジェスト社編(2004):『ゴルフ場ガイド 2004~2005』, ゴルフダイジェスト社, 1115p
小橋拓司(1993):ゴルフ場開発に伴う環境問題. 地理 33-9, pp.98-103.
鈴木富志郎(1993):ゴルフ場の立地と変化に関する研究ノート. 谷岡武雄先生立命館総長退任記念地理学論集〔立命館大人文学会〕, pp.1-19.
田中義久(1992):『ゴルフと日本人』, 岩波書店, 240p.
原賢二(1990):岐阜県におけるゴルフ場の分布について, 岐阜地理 31, pp.3-10.
米地文夫(2000):ゴルフ場と地形. 地理 45-7, pp51-57.
経済産業省 統計局・統計センター <http://www.stat.go.jp/>
日本ゴルフ場事業協会ホームページ <http://www.golf-ngk.or.jp/>
フリー百科事典『ウィキペディア』 <http://ja.wikipedia.org/wiki>

A study of distribution and location of golf courses in Hyogo prefecture

OTSUKA, Syo

Key Words: Golf, Golf course, Golf course boom, Super Highway, Hyogo prefecture